

内野地区(筑穂)

住みよいまちづくり が地域振興のカギ



統廃合が心配される 内野小

合併から3年です。過疎地を切りすてる行財政改革ではなく、「住民が主役」のまちづくりこそ必要です。日本共産党のゆいかんじ市議が12月議会で質問しました。



市教委の看板より

放課後の校庭で元気に遊ぶ小学生たち。昨年、学童保育所が消えた内野小(筑穂)は、市の方針で統廃合の対象になります。子どもの声も、やがて聞こえなくなりがねません。内野地区は、高齢化率33%で病院はなく、商店も少ない。田畑は減り、広大な森林は人手が入らず荒れています。今こそ、筑穂支所の充実を含

自治体として役割をしっかりと果たすべき
ゆいかんじ市議が要求

「お金がない」を口実に
過疎地を切りあつてゐるな



め、きめ細かで効果のある地域振興策が必要です。

ところが今度、市が持ち出してきたのは、小学校の統廃合に加えて、観光施設(長崎屋)、コミュニティ施設(ふれあい館)を、市の施設からはずして、地元負担にすることです。このままでは市が責任を持つ公共施設が、一つひとつなくなりそうです。

ゆい市議は、「合併から3年たったが、市総合計画による成果はまったく見当たらない」「自治体として地域振興の責任をしっかりと果たせ」と追及しました。

長崎街道・内野宿
面影残る建物



地域の宝を守ろう

小学校・長崎屋・ふれあい館
郵便局・コミュニティバス・JR駅



飯塚市の公共施設等のあり方実施計画(素案)がこのままですむと、住民に密接な福祉施設が切りすてられかねません。小学校の統廃合、入浴施設の廃止、特別養護老人ホーム(桜の園)の民間移譲の検討が始まります。内野地区では、小学校の廃止が心配されます。長崎屋とふれあい館も指定管理者制度のあとは、市が責任を放棄し地元負担にされま